

基本情報

指標番号

2196

名称

外来で睡眠薬の処方のある症例のうち、睡眠薬が単剤または 2 剤である割合

分母

外来で睡眠薬の処方のある症例数（人月）

分子

分母のうち、睡眠薬の処方が単剤または 2 剤である症例数（人月）

指標群

精神科

意義

睡眠薬の多くはベンゾジアゼピン系に分類され、不眠症あるいは不眠症状に対して処方される。日本睡眠学会の睡眠薬の適正な使用と休薬のための診療ガイドラインでは、睡眠薬は単剤治療を原則とし、特に、三種類以上のベンゾジアゼピン系ないし非ベンゾジアゼピン系睡眠薬の併用は避けなくてはならないとの記載がある。うつ病学会のうつ病治療ガイドラインではベンゾジアゼピン系睡眠薬は 1 剤以内が原則とされ、かかりつけ医のための BPSD に対応する向精神薬使用ガイドラインでは 75 歳以上、中等度以上の認知症にベンゾジアゼピンは推奨しないとされている。また、高齢者の安全な薬物療法ガイドライン 2015 では高齢者に対しベンゾジアゼピン系は可能な限り使用を控えることとされている。

向精神薬の過量処方や過量処方による副作用に対する安全性指標（プロセス指標）診療報酬（精神科継続外来支援・指導料）において、1 回の処方で 3 剤以上の睡眠薬を投与した場合には、所定点数の 100 分の 20 の点数が減算される。ベンゾジアゼピン系睡眠薬・抗不安薬は薬理作用が共通している一方、催眠作用の強い抗不安薬を睡眠薬代わりに用いることに科学的妥当性はないため、2018 年度からは睡眠薬及び抗不安薬が 4 剤以上の場合、処方料、処方箋料、薬剤料が減算されるようになった。

年度

2010,2012,2014,2016,2018,2020,2022,2024

必要データセット

外来 EF ファイル（F ファイル部分）

指標の定義算出方法

分母の定義

1. 外来 EF ファイルより、睡眠薬（注射薬を除く）（下記リスト）の含まれる処方が実施された人月を算出する。1 か月に複数の種類、複数日、複数回処方されているなどいずれも、1 人月とする。

薬価基準コード 7 桁	成分名	漢字名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
1121001	プロモバレリル尿素	プロバリン原末	○	○	○	○	○	○	○	○
1123001	抱水クロラール	抱水クロラール	○	○	○	○	○	○	○	○

薬価基準コード 7 桁	成分名	漢字名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
1124001	エスタゾラム	エスタゾラム錠 1 m g 「アメル」	○	○	○	○	○	○	○	○
1124002	フルラゼパム塩酸塩	ダルメートカプセル 1 5 1 5 m g	○	○	○	○	○	○	○	○
1124003	ニトラゼパム	ニトラゼパム錠 1 0 m g 「J G」	○	○	○	○	○	○	○	○
1124004	ニメタゼパム	エリミン錠 3 m g	○	○	○	○				
1124005	ハロキサゾラム	ソメリン細粒 1 %	○	○	○	○	○	○	○	○
1124007	トリアゾラム	トリアゾラム錠 0. 1 2 5 m g 「E M E C」	○	○	○	○	○	○	○	○
1124008	フルニトラゼパム	サイレース錠 1 m g	○	○	○	○	○	○	○	○
1124009	ブロチゾラム	ブロチゾラム M 錠 0. 2 5 「E M E C」 0. 2 5 m g	○	○	○	○	○	○	○	○
1124010	ロルメタゼパム	エバミール錠 1. 0 1 m g	○	○	○	○	○	○	○	○
1124030	クアゼパム	クアゼパム錠 1 5 m g 「M N P」	○	○	○	○	○	○	○	○
1125001	アモバルビタール	アモバルビタール	○	○	○	○	○	○	○	○
1125002	バルビタール	バルビタール	○	○	○	○	○	○	○	○
1125003	フェノバルビタール	フェノバル散 1 0 %	○	○	○	○	○	○	○	○
1125004	フェノバルビタール	フェノバルエリキシル 0. 4 %	○	○	○	○	○	○	○	○
1125006	ペントバルビタールカルシウム	ラボナ錠 5 0 m g	○	○	○	○	○	○	○	○
1126001	臭化カリウム	臭化カリウム	○	○	○	○	○	○	○	○
1129004	トリクロホスナトリウム	トリクロリールシロップ 1 0 %	○	○	○	○	○	○	○	○
1129006	リルマザホン塩酸塩水和物	リスミー錠 1 m g	○	○	○	○	○	○	○	○
1129007	ゾピクロン	アモバンテス錠 1 0 1 0 m g	○	○	○	○	○	○	○	○
1129009	ゾルピデム酒石酸塩	マイスリー錠 1 0 m g	○	○	○	○	○	○	○	○
1129010	エスゾピクロン	ルネスタ錠 1 m g		○	○	○	○	○	○	○

薬価基準コード 7 桁	成分名	漢字名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024
1190016	ラメルテオン	ロゼレム錠 8 m g	○	○	○	○	○	○	○	○
1190023	スボレキサント	ベルソムラ錠 2 0 m g			○	○	○	○	○	○
1190027	レンボレキサント	デエビゴ錠 5 m g						○	○	○
1190028	メラトニン	メラトベル顆粒小児用 0 . 2 %						○	○	○

分子の定義

1. 分母のうち、外来処方各日、処方された睡眠薬の薬剤種数（成分名でカウント）が 2 種類以下の症例。日毎に睡眠薬の処方の薬剤種数を求める。1 か月に複数回の処方日がみられる場合、すべての処方日において、それぞれ、睡眠薬の薬剤種数が 2 種類以下の場合に分子として算出される。1 か月のうち 1 回でも 3 種類以上の処方がある場合は、分子には含まれない

その他

薬剤一覧の出力

いいえ

リスク調整因子の条件

指標の算出方法

分子÷分母

指標の単位

パーセント

結果提示時の並び順

降順

測定上の限界・解釈上の注意

1. 薬価基準コードに対する成分名は厚労省ホームページより取得
<http://www.mhlw.go.jp/topics/2012/03/tp120305-01.html>

参考資料

参考値

参考資料

1. Australian Council on Healthcare Standards (ACHS). Australasian Clinical Indicator Report 2003 – 2010 12th Edition Mental Health Inpatient, version 6 Clinical Indicators
http://www.achs.org.au/media/3871/MentalHealthInpatient_www.pdf (2013 年 1 月 4 日アクセス可能)
2. 三島和夫, 片寄泰子, 榎本みのり, 他. 診療報酬データを用いた向精神薬処方に関する実態調査研究. 平成 22 年度厚生労働省科学研究費補助金 特別研究事業 向精神薬の処方実態に関する国内外の比較研究分担研究方向書. 2010 年. <http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000001tjq1.html> (2013 年 1 月 4 日アクセス可能)

3. 厚生労働省.過量服薬への取り組み-薬物治療のみに頼らない診療体制の構築に向けて 2010 年 www.mhlw.go.jp/bunya/shougaihoken/jisatsu/dl/torimatome_5.pdf (2013 年 1 月 4 日アクセス可能)
4. 薬剤の分類について下記参照（改訂に際しては、同著者、日本精神神経学会/日本精神神経薬理学会による最新情報を随時参照のこと） Toshiya Inada et al. Psychotropic dose equivalence in Japan. *Psychiatry Clin Neurosci.* 2015; 69(8):440-7. Doi: 10.1111/pcn.12275.
5. 日本睡眠学会 睡眠薬の適正な使用と休薬のための診療ガイドライン 2014 年 7 月 22 日更新 <https://jssr.jp/files/guideline/suiminyaku-guideline.pdf> (2024 年 6 月 13 日アクセス可能)
6. 日本うつ病学会治療ガイドライン II.うつ病(DSM-5)/大うつ病性障害 2016 (2024 年 3 月 1 日改訂) <https://www.secretariat.ne.jp/jsmd/iinkai/katsudou/data/20240301.pdf> (2024 年 6 月 13 日アクセス可能)
7. かかりつけ医のための BPSD に対応する向精神薬使用ガイドライン (第 2 版) 0000140619.pdf (mhlw.go.jp) (2024 年 6 月 13 日アクセス可能)
8. 高齢者の安全な薬物療法ガイドライン 2015 20170808_01.pdf (jpn-geriat-soc.or.jp) (2024 年 6 月 13 日アクセス可能)